

河野伊一郎会員「岡山大学長」に就任

河野伊一郎会員が第11代岡山大学長に就任した。4月27日に行われた同大学長選挙によって選出されたもの。任期は平成11年6月14日から4年間である。

同会員は、昭和36年に京都大学工学部を卒業後、同大学院工学研究科修士課程を修了し、同大学工学部助教授、昭和50年岡山大学工学部助教授、同教授を経て、平成6年に環境理工学部創設に伴い同教授となった。この間、昭和61年から2年間、岡山大学評議員、平成2年から工学部長を2期4年間、さらに、平成6年から、環境理工学部の初代学部長を2期4年半勤めるなど、学部はもちろんのこと岡山大学の管理運営に多大の努力を払った。特に、8年間の長期にわたり、学部長として数多くの多様な概算要求を成し遂げた教育行政にお

ける卓抜な識見と人間的魅力に富んだリーダーシップは誰もが認めるところである。

同会員の専門は、土質力学、地下水工学であり、土質工学会・地盤工学会において長年活躍され、昭和45年に土質工学会論文奨励賞を受賞し、平成7～8年度に理事・会誌部長を務めた。

現在、大学が置かれている難局を乗り越えるためには、何よりも学長のリーダーシップが強く求められている。21世紀の大学の発展のために、河野伊一郎新学長の活躍に寄せられる期待は大きい。

(文責 竹下祐二 岡山大学助教授 環境理工学部)

(原稿受理 1999.6.11)

野尻元理事（事業部長）が紫綬褒章を受章

この度、野尻明美元理事（現・八千代エンジニアリング(株)技術本部顧問）が平成11年春の紫綬褒章を受章された。氏が中心となり開発した山留め設計法（仮想支点法）、施工法（切梁プレロード工法）および計測管理法（自動挿入式傾斜計）などの一連の「地盤掘削時の山留め崩壊防止技術」は現行の指針の参考にされ、地盤掘削工事に伴う事故の減少に貢献したことが認められたものである。

なお、紫綬褒章は学術・芸術の分野で優れた事績をあげた者に総理大臣より贈られるものである。今回の紫綬褒章受章者は合計41名であったが、氏は建設業関連では唯1名の受章者であった。

(文責：宮崎祐助 (株)大林組技術研究所)

(原稿受理 1999.6.14)



野尻明美 (のじり あけみ)

昭和38年早稲田大学理工学研究科終了、鹿島建設技術研究所専門部長、同所次長、本社の知的財産部部長を経て平成11年3月に退職。その間、地盤工学会では平成4年に理事（事業部長）、平成9年に知的所有権問題特別検討チーム副座長を歴任。現在は八千代エンジニアリング(株)技術本部顧問。博士（工学）東北大学。